

## 令和3年度第1回天童市教育委員会協議会について（報告）

日 時 令和3年12月21日（火）午前10時から11時33分まで  
場 所 天童市教育委員会 第1会議室  
出席委員 相澤一彦教育長、工藤昭広委員、村山晴香委員、松村昌子委員、  
大内あゆ子委員  
出席者 武田文敏教育次長兼教育総務課長、町田真裕学校教育課長、  
矢萩茂生涯学習課長、大沼敦学校給食センター所長、  
事務局（教育総務課職員）

### 協議事項

（1）令和4年度教育委員会重点施策について

### 各課からの連絡

（1）教育総務課

- ・市議会12月定例会での教育委員会関係補正予算可決について
- ・会計検査院実地検査の状況について

（2）学校教育課

- ・校務支援ソフトの活用について

（3）生涯学習課

- ・生涯学習フェスティバル2021の開催状況について
- ・令和3年新成人の集いの開催状況について
- ・令和4年新成人を祝う会の開催について

（4）学校給食センター

- ・今後の給食の予定について

### <教育長あいさつ>

---

本日は、協議会として後ほど各課からの来年度の重点施策について報告させていただきます。

先日の市議会における一般質問に関連することをお話しします。平成元年度の本県の学校数はおよそ530校から540校だったと思います。今年度の学校数は330校ぐらいとなり、元年度より200校ほど減っています。本市の田麦野小学校が閉校したのは、平成18年度でそれ以降、県内では145校閉校していますが、市内で1校も閉校していないことから、天童は安定している状況だと思っています。

一般質問では、将来的に複式学級になる可能性がある一部の学校について、特任教制度を活用し特色ある学校づくりをして、子どもを増やしたらどうかと質問を受けました。複式学級になることで、学力が下がることはなく、複式学級でも地域に

学校があることが絶対に良いことであります。学校を統合する方法もありますが、統合は地域にとって難しいのではないかと思います。

特任校制度は、学区の外から子どもを受け入れる制度で、田麦野小学校も特任校でしたが実際に外から入ったのは2人でした。また、そこに住んでいる人ではないので、PTAなど役員のみになり手にならないなど地域の学校として盛り上がりがなく課題もあったようです。

このほか、学区を変える考え方もあります。学校ごとに人数のバランスを考えることはできますが、そう簡単に今度からあそこの学校に行ってください、とはならないのも事実です。

特任校は、特色ある学校づくりが条件となっていますが、それにも限界があります。つまり、そこに通う子どもたちにとってその特色だけを頑張ればいいのかというと、ほかの分野で頑張りたいという子どももいるわけで、その特色だけで子どもを伸ばすことは難しいだろうと思うところです。

## < 協議事項 >

---

### (1) 令和4年度教育委員会重点施策について

#### 協議内容

教育長：部活動指導員について、人員は増えないのか。

学校教育課長：予算要求の優先順位を考え、部活動指導員は現状維持の人数で考えている。文部科学省で、部活動の地域クラブへの移行について研究がスタートしているので、それも並行して考えていきたい。

工藤委員：どれも重要な事業だが、重点というからには、令和4年の最重要事業はこれです。というように事業を絞った説明でいいのではないか。

教育次長：来年度、特に力を入れていきたいという事業を重点的に表示する方法を検討していきたい。

学校教育課長：学校教育課では、スクールソーシャルワーカー事業のほか、ICTと英語教育の2本柱を加えた3つに力を入れて精度を高め、より教育を充実していきたい。

松村委員：奨学金返還支援事業で、認定を受けたのは何人か。またコロナ禍で需要が増えているのか。スクールソーシャルワーカーで、保護者は十分に認知しているのか。一般に広く認知をしてほしい。

教育次長：私立高等学校生徒学費補助は、昨年度10人で今年度24人と倍以上増えた。それだけ経済的に厳しい家庭も多いと認識している。奨学金貸付も、昨年度はいなかったが、今年は1人貸付を行った。山形就職促進奨学金返還支援事業も年々希望者が増えている。コロナ禍で支援を求める声が多くなっている中で、県の予算の都合もあり全員認定できなかったのが残念だった。

学校教育課長：スクールソーシャルワーカーは、すべての小中学校で認知し、子どもに悩みや課題があった時、一番に察知するのは担任の先生であり、家庭に入ることが必要な時は、スクールソーシャルワーカーからアドバイスをもらい、福祉とつなぐ働きをしている。課題は、幼児期などで幅広い支援が必要で、そのためには子育て支援課や健康課と連携して情報交換などができる態勢をつくる必要がある。

村山委員：スクール健康アップ事業の中に、ぜひICT活用における視力、姿勢の改善にも力を入れてもらいたい。部活動支援員について、どのような人が選ばれているのか。

学校教育課長：タブレットによる視力や姿勢への影響がクローズアップされている。養教の先生から話や外部研修もあるので学校に周知していく。部活動指導員は、学校の求めに応じ1名配置し、教員OBや警察OBなどとなっている。

大内委員：明治大学との連携事業で、受けた方に聞いたところ、内容が難しいとの話があった。もう少し内容を配慮してほしい。また、周知を図って多くの市民に受けてほしい。市立図書館で、スマホを教える教室を期待したい。

生涯学習課長：講座は、明治大学からメニューをもらい選択している。本当は、一度試してみて選択できるのいいが、初級編とか情報がいらないかと思う。公民館の教室で、スマホ操作の講座をしている。ワクチン接種の予約で、LINEを使ったこともあり講座を開いた。

松村委員：毎日のカリキュラムが忙しく、学校給食を食べる時間が短いと感じる。なかなか難しいと思うが、ゆったりと食べる時間があればいいと思う。

学校教育課長：学校の理想では、15分程度食べる時間が取ればよいと考えている。配膳まで時間が掛かり、食べる時間が縮小している。各学校でアイデアを出し合いながら、ゆとりあるものにしていきたいと思う。

村山委員：田麦野のへき地保育所が新たな施設になることに期待している。ぽんぽことの使い分けは、地域の方が中心となり地域外の人が利用しづらくなるのでは。イバラトミヨのような素晴らしい環境に直に触れてくれる子どもたちが増えてくれるといい。環境保全活動などの中で、子どもたちも学べる機会があればいい。学校給食の食物アレルギーについて、資料やお知らせを子どものタブレットで確認や提出ができるといい。

生涯学習課長：田麦野へき地保育所とぽんぽことの使い分けについて、特段区別はせず、健康診断や高齢者大学など高齢者が使用する場合は、平屋の田麦野へき地保育所を使い、それ以外はぽんぽこで会議や行事をやっていく。成生小学校で、夏休みにイバラトミヨの環境整備にきてもらっている。アメリカザリガ

ニの除去をしてもらったりしている。

学校給食センター所長：食物アレルギーをお持ちの方には、成分表などお渡しするものが多く、ICT化という点からもタブレットやホームページから見られるような工夫をして、できるだけ紙資料を減らしていきたい。ただ、アレルギーを確認するシステムは、どういうものが構築できるか時間をいただきたい。

工藤委員：多賀城市でカフェに入ったら、実はそこは図書館だった。図書館だからこれはしてはいけないというのではなく、そういうのを踏まえて図書館の先進地視察をしていただきたい。炊飯施設は、白米以外の雑穀米を食べさせている家庭もあると思う。そういう場合は、対応できるのか。

学校給食センター所長：今は、炊飯業者に委託しているが、市で炊飯施設を整備することで、市独自にさまざまな食材を使って給食を提供できると思う。美味しく、また栄養価の高い給食を提供できると思う。

教育長：その他意見なし。以上で第1回教育委員会協議会を終了します。